

愛知大学国際中国学研究センター（ICCS）公開講演会

「三圏説」－中国人類学における漢族と “内と外の異文化”研究の歴史と課題

"The Three Rings": The History and Historical Issues of Chinese Anthropological Narratives of the Han and the "Internal" and "External" Others

講師：王 銘銘

北京大学社会学人類学研究所教授

日本国立民族博物館民族文化研究部訪問教授

日時：2011年10月29日（土）14時00分～17時00分

場所：愛知大学 名古屋校舎 中央教室棟3階 第4研修室

《概要》

「三圏説」は、親族制度研究のための人類学的概念であるが、中心・周辺・半周辺からなる世界政治を論ずる著名な「世界システム論」の概念でもある。本講演では「三圏」を以って漢族・内部社会の他者・外部社会の他者という三者を示し、20世紀以前中国の「天下観」に焦点を当て、「天子の民」から「国族」への転換を通して、「三圏説」による中国社会研究の意義を提示する。

司会兼コメンテーター：高 明潔（愛知大学現代中国学部教授、ICCS 運営委員）

通訳：小嶋 祐輔（愛知大学 ICSS 研究員）

* 日本語通訳有、一般公開、参加無料、申込不要

【問い合わせ先】愛知大学国際中国学研究センター（ICCS）事務室

Tel (0561) 36-5637 Fax (0561)36-5422

Email coe-iccs@moon.aichi-u.ac.jp

アクセス <http://www.aichi-u.ac.jp/profile/06.html>